

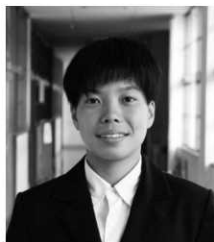
全国の舞台で活躍する 与謝野の中学生

先月号に引き続き、全国の舞台で活躍する中学生を本人のコメントとともに紹介します。

橋立中学校の高橋みらいさんは、栃木県で開催された「第77回国民体育大会サッカー競技 少年女子」にU16京都府選抜のメンバーとして初出場。初戦の山梨県との試合ではスターティングメンバーに名を連ね、2対1と京都府の勝利に貢献しました。今後の活躍にぜひご注目ください。

第77回国民体育大会サッカー競技 少年女子 出場

高橋みらいさん (橋立中3年)



小学1年生からサッカーを始め、福知山のクラブチームに所属し練習の日々を送っている高橋さん。ポジションは右サイドバック。「攻めと守りのバランスが難しいけれど楽しい」と話します。迎えた大会では、準々決勝で本大会の優勝を飾った東京都に惜しくも敗退となりましたが、「普段一緒にプレーできない選手と、1試合でも多くできてよかった」と大会を振り返ります。今後は「高校は女子サッカーの強豪校に進学して全国大会に出場したい。将来の夢はプロサッカー選手です」と力強く目標を話してくれました。

第77回国民体育大会セーリング競技 少年女子 レーザーラジアル級 出場

杉本妃南さん

(宮津天橋高校宮津学舎3年 / 加悦中出身)



「海が好きで、海でできるヨット部を選びました」と杉本さん。高校生活最期の大会が初の全国大会となり「良い結果を残したくて、ドキドキとワクワクでした」と大会前の気持ちを話します。3日間の競技を終え惜しくも入賞とはなりませんでしたが、3年間を振り返り「無知な状態から始め、高校生活最期で全国大会に出場できてこれまで努力してきたことが報われたと思いました。辞めたいと思ったときもありましたが、継続することの大切さを学びました」と笑顔で話してくれました。

第77回国民体育大会セーリング競技 少年女子 420級 出場

岡本さららさん (写真左)

(宮津天橋高校宮津学舎2年 / 橋立中出身)

「高校では新しいことに挑戦したい」と思いヨット競技を始めた岡本さん。初の全国大会は「普段とは違う種目での出場で不安でしたが、やるしかないと思い挑戦しました」と大会を振り返ります。今後は「最期まで諦めず部活動を続け、キャプテンとして後輩を引っ張っていききたい」と話してくれました。



吉田楓さん (写真右)

(宮津天橋高校宮津学舎1年 / 江陽中出身)

「兄のヨット姿にあこがれ、高校はヨット部に決めていました」と吉田さん。1年生で全国大会出場となり「ダブルに乗るのは初めてで、先輩に迷惑をかけないよう必死でした」と大会を振り返ります。今後は「11月に開催される新人戦に向けて、良い成績が残せるよう頑張りたい」と話してくれました。

Memo - 宮津学舎ヨット部 -

ヨットは2人で乗る艇(420級)と1人で乗る艇(レーザーラジアル級)があり、インターハイや国体を目指して、宮津湾で男女13人の部員

が日々練習をしています。2018年には女子420級でインターハイ優勝、2019年には世界大会に出場するなど、全国・世界で活躍しています。

※ 中学生は近畿大会以上、高校生は全国大会に出場した生徒を掲載しています

広報よさの11

Yosano Public Relations Magazine No.201

目次 CONTENTS

- 3 全国の舞台で活躍する与謝野の中学生
- 4 【特集1】与謝野町のふるさと納税
- 6 【特集2】令和3年度決算報告
- 10 【特集3】まちづくりアンケート調査結果報告
- 14 令和4年度 役場組織・業務案内
- 16 Close Up
- 18 まちの話題お届けします / がんばってます！消防団
- 20 健やか広場 / 図書館へ行こう！
- 22 町政 News&Infomation
- 26 お知らせページ

今月の表紙 COVER PHOTO

10月16日に4年ぶりに開催された「きものでぶらりちりめん街道2022」。秋晴れのもと、会場のちりめん街道にはきもの姿の来場者が多く見られ、にぎわいをみせていました。



宮津天橋高校宮津学舎3年 (橋立中出身) おおたここな たけはらももか
太田心菜さん / 竹原李花さん

仲間の思いを背負い、挑んだ高校生活最期の大会。優勝できなかったけれど、最期に2人でペアが組めてよかった。



太田さん(左)と竹原さん(左)

宮津天橋高校宮津学舎ボート部に所属する2人。幼稚園から同じ時間を過ごし、「太田さんに誘われてボート部に入部しました」と竹原さん。2人とも高校から競技を始め、2年の夏に初の全国大会出場を果たすも悔しい結果となり「全国制覇したい」という思いが強くなり、お互い競い合いながら練習してきたと太田さん。迎えた3年の夏。2年連続で京都府を制し挑んだ8月のインターハイでは、惜しくも6位入賞となり「悔しかった」と竹原さんは話します。2人は、これまでの活躍が認められ、10月に栃木県で開催された「第77回国民体育大会」のボート競技(少年女子)ダブルスカルの京都府選抜に選出。高校生活最期の大会で全国制覇とはなりませんでしたが堂々の6位入賞。「すばらしい仲間とともに過ごした3年間は宝物です」と笑顔で話してくれました。